

「人間力」とIT化社会

今朝の朝日新聞の「人」欄の「いろいろな人とつき合う中で、公平に人を見て、社会を読み解く『人間力』が身に着いた。若い人たちはメ - ルやインタ - ネットに頼り過ぎていないか。時代が変わっても、人と人の付き合いの中で、人間は育つ。人格と人格がぶつかり合って初めて真実を吐露さる。(元東京地検特捜部長)」の文章が目にとまった。

なぜかという、先日あるTV番組で、あるネット企業の社長が、これからの社会はIT化が益々進み、殆どの経済決済が人を介さずITで済ませるようになり、またITを介しての人との出会いが多くなるような話をしていたが、少し疑問を抱いただけに、その疑問の整理のヒントを得たような気がした。

確かに、これからはあらゆる分野で人を介さなくても、社会生活が行える便利な時代になるだろう。しかし、そうした中で「人間力」は養えるのであろうか。「人間力」がなくて、初めて出会う人と、情報交換だけでなく、コミュニケーションを深めることは、可能なのであろうか。人と人の関係は、そんな単純なものではない気がする。

人を介する社会生活であっても、次のようなことが現実。全国至る所にあるコンビニ。子どもでも、24時間買い物可能。遅い時間帯で買いに来た子どもに、店員(往々にしてバイト学生)は接客マニュアル通りに対応。そこに、人格と人格のぶつかり合いはあるのだろうか。「こんな時間の買い物に来て、お母さん、心配してない?」というような声かけが、人格と人格のぶつかり合いということではないだろうか。

また、店に買いに行かなくても、通販でいくらでも何でも買える。買いに行くという社会行動も必要なく、「店員などの人と係わるのが面倒」という人も多いとか。

更に、HP記載の「ネグレクト」の母親は、自分の実母と携帯メ - ルのやりとりが一日に何十回という日も珍しくなかったとか。実母は孫娘の様子を時に見ていただけに気にしていたが、娘からの実母を安心させるメ - ルで安堵していたとか。頻回のメ - ル交換であっても文字づらだけでは、「真実を吐露さる」ことに限界があるということであろう。

今以上のIT化蔓延の社会の中で、「人間力」は育つのかなあ。こうした中で育った次世代の社会って、どういう人間関係の社会か、想像もつかない。何だか、人が人をロボット化視するのでないかと危惧する。

(2005年2月7日 記)